鉄鋼概況

2013 年度粗鋼生産 6 年ぶりの高水準

鉄鋼エコノミスト　左近司 忠政

3 月の全国粗鋼生産は前年同月比 2.9%増で，リーマン・ショック直前の 2008 年 10 月以来の高水準となり，2013 年度の全国粗鋼生産量は前年度比 3.9%増の 1 億 1,151 万トンで 2 年連続増，4 年連続 1 億トン超となった。3 月の全鉄鋼輸出は前年同月比 5.0%減と 7 カ月連続の減少で，国内需要の増加に加えて価格低迷が続く輸出を鉄鋼メーカーが抑制していることが影響している。全鉄鋼輸入は前年同月比 58.2%増と大幅に増加した。経済産業省の鋼材需要見通しによると，2014 年 4～6 月期の出荷相当粗鋼需要量は前期実績見込み比 1.2%減で 2 四半期連続で減少し，前年同期比では 3.8%減で 2012 年 10～12 月期以来 6 期ぶりのマイナスとなる。世界鉄鋼協会の世界鋼材見掛け消費の見通しによると，2014 年は前年比 3.1%増と 5 年連続で増加し初の 15 億トンに乗せ，2015 年は同 3.3%増となる。

◆2013 年度粗鋼生産，6 年ぶりの高水準

鉄鋼連盟が発表した 2 月末の普通鋼鋼材国内在庫（メーカー・問屋段階）は，前月末比 3 万 4,000 トン，0.6%減の 573 万トンとなり，3 カ月ぶりの減少となった。一方で在庫率は，出荷量が減少したため前月末比 4.2 ポイント上昇して 140.5%となった。また，2 月末の普通鋼鋼材の流通在庫は鉄連が行なった市中鋼材数量調査によると，前月末比 8,000 トン，0.3%増の 277 万 9,000 トン（前年同月比では 4.6%増）となった。2 月の販売量は 2 万 2,000 トン，0.8%増の 268 万 5,000 トンとなったために，在庫率は前月末比 0.5 ポイント低下して 103.5%となり，3 カ月連続して 100%を上回った。

主要鉄鋼製品の在庫状況についてみると，2 月末の薄板 3 品（熱延・冷延・表面処理鋼板）の国内在庫（メーカー・問屋・コイルセンターの合計）は，前月末比 10 万 2,000 トン，2.5%減の 399 万 1,000 トンと 3 カ月ぶりの減少となった。例年 1 月末から 2 月末にかけて 10 万トン程度減少しており季節パターンともいえるが，自動車生産の高水準，関東地区を中心とした大雪への修復特需なども影響している。在庫率は前月末の 2.07 カ月から 2.33 カ月に上昇したが，2 月という暦要因もある。主要建材製品である H 形鋼の 3 月末の流通在庫は，新日鉄住金の建材特約店組織である「ときわ会」の纏めによると。前月末比 1 万 4,000 トン，6.4%増の 23 万 3,500 トンとなり，4 カ月連続の増加となった。23 万トン超の在庫は 4 年 5 カ月ぶりである。在庫率は前月末比 0.09 ポイント上昇して 2.76 カ月と 3 カ月連続しての 2 カ月台となった。同社では，明らかに過剰であるとして，店売り向け H 形鋼の 5 月ロール分の受注を 1～3 月平均に比して 5 割以上の引き受け抑制を行なうと発表した。

鉄連が発表した 3 月の全国粗鋼生産は，前年同月比 2.9%増の 973 万トンに達し，リーマン・ショック直前の 2008 年 10 月以来の高水準となった。この結果，2013 年度の全国粗鋼生産量は前年度比 3.9%増の 1 億 1,151 万トンとなり，2 年連続しての増，4 年連続しての 1 億トン超となった。また，1 億 1 千万トン台は 2010 年度（1 億 1,080 万トン）以来 3

年ぶりで，過去最高となった 2007 年度（1 億 2,151 万トン）以来 6 年ぶりの高水準となった。アベノミクスや円高修正の効果，さらに消費増税による駆け込み需要が国内鉄鋼需要を押し上げた。炉別生産では転炉鋼が前年度比 3.9%増の 8,610 万トン，電炉鋼も同 3.9%増の 2,541 万トンとなり，電炉鋼比率は前年度と変わらず 22.8%であった。鋼種別では普通鋼が 3.2%増の 8,655 万トン，特殊鋼が 6.5%増の 2,496 万トンとなった。

財務省が発表した 3 月の鉄鋼貿易統計によると,輸出(全鉄鋼ベース)は前年同月比 5.0%減の 383 万 9,000 トンとなり 7 カ月連続しての減となった。国内需要の増加に加えて，価格低迷が続く輸出を鉄鋼メーカーが抑制していることが影響している。一方，全鉄鋼輸入は前年同月比 58.2%増の 85 万 7,100 トンと大幅に増加した。5 カ月連続して前年水準を上回り，過去最高であった 1 月の 87 万 7,400 トンに続き再び 80 万トン台を記録した。中国の景気減速，韓国の能力増強などが影響している。

3 月の輸出を向け先別内訳でみると，アジア向けが前年同月比 6.8%減の 301 万 1,000 トンで,このうち中国は自動車生産の回復が手伝い 4.4%増の 54 万 9,000 トン,NIE's は 13.8%減の 54 万 9,000 トン，ASEAN がタイの政治混乱などが響き 5.3%減の 122 万 1,000 トンとなった。中東は 8.3%増の 18 万 5,000 トン，米国は 11.5%増の 21 万 4,000 トンであった。一方，3 月輸入の地域別内訳はアジアからが前年同月比 67.5%増の 72 万 5,800 トンで，うち中国からが 2.7 倍増の 19 万 4,800 トンと急増し，NIE's からが 47.3%増の 49 万 7,200 トン，ASEAN からが 53.6%増の 1 万 4,000 トンであった。

この結果，2013 年度の鉄鋼貿易は，輸出量が前年度比 3.0%減の 4,209 万 6,000 トンで，下期の抑制によって過去 2 番目の高水準を記録した前年度に比べると減少したものの，2 年連続で 4,000 万トン台を超えた。一方，輸入量は前年度比 9.9%増の 818 万 7,000 トンとなり，東日本大震災の混乱や円高影響で輸入が増加した 2011 年度に続き 2 年ぶりに 800 万トン台になった。2013 年度の地域別輸出は，アジアが前年度比 4.1%減の 3,317 万 2,000 トン,うち中国が 2.6%増の 608 万 3,000 トン,NIE's が 5.5%減の 1,245 万 4,000 トン,ASEAN が 4.0%減の 165 万 6,000 トンとなった。中東が 11.4%減の 165 万 6,000 トン,米国が 1.1%増の 230 万 6,000 トンであった。2013 年度の輸入内訳はアジアが 10.0%増の 678 万 7,300 トンで，うち中国が 19.1%増の 137 万 6,000 トン，NIE's が 7.3%増の 501 万 9,000 トン，ASEAN が 8.2%増の 12 万 1,300 トンであった。

◆4～6 月期粗鋼需要，2,701 万トン――経産省見通し

経済産業省が発表した 2014 年度第 1 四半期（4～6 月期）の鋼材需要見通しによると，出荷相当粗鋼需要量は,前期実績見込み比 1.2%減の 2,701 万トンで 2 四半期連続で減少する。前年同期比では 3.8%減となり 2012 年 10～12 月期以来 6 期ぶりのマイナスとなる。

鋼材需要では，前期比 3.6%減の 2,362 万トンと 3 期連続で減少する。うち国内需要は 5.3%減の 1,539 万トン，輸出は 0.3%減の 823 万トンとなる。

普通鋼鋼材の国内需要は，前期比 5.7%減と 2 期連続の減少となり，消費増税前の駆け込み需要の反動を見込む。うち建設関連では，公共土木が季節要因などで前期比 17.7%減り，前年同期比でも 0.1%減る。民間土木は季節要因で前期比 7.0%減，防潮堤工事が多かった前年同期比で 5.6%減とみている。建築需要は住宅が駆け込みの反動で前期比 8.6%減，前年同期比でも 7.9%減を見込む。物流倉庫などの需要が堅調な非住宅建築では前期比 4.2%増で，大型店舗が多かった前年同期比 2.1%減とみている。製造業向けでは，自動車は季節要因と駆け込み需要の反動で国内販売が前期比 17.2%減，前年同期比 2.6%減を想定しており，一方ノックダウンセット輸出は日系自動車の海外生産増が続くため前期比

5.6%増，前年同期比 2.1%増とみている。造船は起工量は前期比横這い，前年同期比 10.0%増を想定している。普通鋼鋼材の輸出は，アジア市場の過剰供給，市況の低迷が続くため，前期比 1.1%減，前年同期比 5.5%減とみている。

特殊鋼鋼材は，国内需要は駆け込み需要の反動の影響で前期比 3.7%減の 323 万トン，輸出は自動車の海外生産拡大を受けて同 2.9%増の 183 万トンとみている。

◆2014 年世界鋼材需要，初の 15 億トン――WSA 見通し

世界鉄鋼協会（WSA）が発表した 2014 年と 2015 年の世界鋼材見掛け消費の見通しによると，2014 年には前年比 3.1%増の 15 億 2,700 万トンと 5 年連続で増加し，初の 15 億トンに乗せる。また，2015 年は同 3.3%増の 15 億 7,600 万トンに増加する。

中国の 2014 年の需要は，前年比 3.0%増の 7 億 2,120 万トンと伸び率は半減する。中国政府の構造転換の取り組みで投資が抑制されると見ている。2015 年も 2.7%増に止まるとしている。インドの需要は 2013 年の 1.8%に続き，2014 年は 3.3%増の 7,620 万トンになるとみており，2015 年も選挙の影響が不透明ながら，4.5%増を見込む。日本はアベノミクス効果で 2013 年の需要は前年比 2.0%増えたが，2014 年は 1.0%減の 6,460 万トンと 2 年ぶりの減少に転じると見ている。消費増税が建設，自動車需要に影響すると想定している。2015 年は 0.5%増を見込む。

米国の需要は 2013 年には前年比 0.6%減となったが，2014 年には 4.0%増の 9,940 万トンと 2 年ぶりに増加し，2015 年には 3.7%増加する見通しである。メキシコは 2014 年が 1,920 万トンと 3.4%増，2015 年は 3.9%増を見込む。ブラジルは 2014 年が 2,720 万トンと前年比 3.0%増，2015 年は 3.2%増と見通しているが，インフレと高金利が成長の足を引っ張る。

表－1　世界の鋼材見掛け消費量見

（単位:100万トン，カッコ内は前年比増減率%）

	2013年		2014年		2015年	
EU－28カ国	139	(△0.2)	143	(3.1)	148	(3.0)
その他欧州	37	(8.5)	38	(3.9)	40	(4.2)
CIS	59	(2.2)	59	(1.1)	62	(3.7)
NAFTA	129	(△2.4)	134	(3.8)	139	(3.4)
中南米	49	(4.3)	51	(3.4)	52	(2.7)
アフリカ	29	(9.8)	30	(4.8)	33	(8.4)
中東	48	(△1.1)	51	(5.8)	55	(9.5)
アジア・オセアニア	992	(4.9)	1,020	(2.8)	1,048	(2.8)
世界計	**1,481**	**(3.6)**	**1,527**	**(3.1)**	**1,576**	**(3.3)**
先進国	387	(△0.3)	397	(2.5)	407	(2.4)
新興国	1,094	(5.1)	1,130	(3.2)	1,170	(3.5)
中国	700	(6.1)	721	(3.0)	741	(2.7)
BRIC	843	(5.4)	869	(3.0)	894	(3.0)
中東・北アフリカ	63	(0.9)	67	(6.1)	73	(9.4)
中国除く世界計	**781**	**(1.5)**	**805**	**(3.1)**	**836**	**(3.7)**

EU28 カ国の需要は，2013 年は 0.2%減だったが，2014 年は建設の底入れが効き同 3.1%増の 1 億 4,330 万トンに増加すると見通し，2015 年には 3.0%増を見込んでいる。CIS（旧ソ連）は，2013 年は前年比 2.2%増だったが，2014 年はウクライナの減（同 3.0%減）の影響から 1.1%増の 5,950 万トンに止まる。2015 年は 3.7%増とロシアの増（4.4%増）が需要を底上げする。❑